



菊池 美也 議員
(政和クラブ)

一括質問方式

【その他の質問】

- スクールバス運転手の体調管理について
- 安全な通学路の整備と確保について

人口減少・地域消滅に抗いたい！
自分達の遠野は、自分達の
知恵と工夫で生き残らせる。



「東北の駅 100 選」に選定された遠野駅

問

昭和30年から人口が減り続けているが？

答

約半世紀で4割以上の減。10月の国勢調査ではより厳しい数字を覚悟する。跳ね返す、立ち向かう気概・挑戦が大事。減少のカーブを緩やかにする知恵と工夫が問われている。

問

少子化対策(自然増)と若者定住促進策(社会増)が互いに作用してこそ、人口減少を止めることができるのでは？

答

自然増と社会増の両輪が必要。『子育てするなら遠野推進本部』を立ち上げ、自然増に

問

取り組んでいる。社会増では、定住対策『でくらす遠野』により、61世帯121人が移住。うち20〜30代が約4割。「仕事」も重要。遠野東工業団地9haの整備に着手する。周辺市町村とも連携をはかり、雇用を確保する。さらには遠野独自の起業化支援『商工業チャレンジ応援事業』、『青年就農給付金』や『ア

スト・パワーアップ事業』もある。「ふるさととは好きだけれども、職場があれば……」このような中学生の声が私にも届いた。彼らの期待に応えるためにも、全力を挙げて取り組む。

どうする？
遠野駅舎の未来について

問

遠野駅舎の建て替え方針が明らかになった。観光の中心的存在であり、街づくりの象徴でもある現駅舎を後世に残すべきでは？

答

JR側の議論では、現駅舎は経済性から不要。しかし、魅力ある地域を創るのが『地方創生法』の理念。単なる解体ではなく、利活用や保存といった選択肢も含め、街づくりのコストをJRには考えてもらわなければならない。「遠野駅舎の未来を考える会」への参画希望が多い。最終的には100近い団体が加盟するのは、これは間違いなく力になる。この市民力を背景にJRと向き合う。「鉄道をもっと利用しよう」といった貴重な意見もある。誠意を見せながら駅舎問題に対応していく。

高齢者の生きがいづくり
について

問

当市においても年々高齢化率が高くなっていく中、高齢者の方々の生きがいづくりは、子育て支援や若者の定住対策と同様に、市の活性化を左右する重要なポイントと考える。そこで、当市が今まで取り組んで来た高齢者の生きがいづくりについて伺いたい。

答

市が事業委託して実施している「生きがい活動支援通所事業」や、地域住民が中心となって開催している「ふれあい・いきいきサロン」、そして元氣促進、体力充実を図るため「体力アップ教室」や「転倒骨折予防教室」の開催、ICT健康塾への参加の呼びかけ等を行っている。

問

また、シルバー人材センターは、それぞれの知識や技能を活かした就業により健康を保持し、生きがいづくりや社会参加につながる大切な事業と考えているし、高齢者自身が組織している老人クラブにおいては、自らが行う地域活動・スポーツ大会・健康づくり事業等の活動に対して支援を行っている。

再び高齢者を第一線に！！



生き生きと活動する高齢者の方々

問

今の高齢者の方々は、戦後の復興期や高度経済成長期を自ら切り開いた、或いは支えてきた方々であり、知識・知恵・経験・技術全てにおいて人生の大先輩として卓越した能力を有していると認識している。地域の総合力の一員、又は、核と

答

してその方々を巻き込んだ地域づくりを考え、実現することにより、それが本当の意味での高齢者の方々の生きがいづくりにもなるのではと思うが？

問

じたり重荷に感じている場合が多くなると思われるので、市としても当事者意識も持ちながら高齢者の生きがいづくりの仕組みを構築していく。

答

支える側と支えられる側という見方をした場合に、支えられる側はどうしても負担に感



浅沼 幸雄 議員
(政和クラブ)

一問一答方式